

**第6次福島市総合計画
「将来構想」及び「基本方針」に関する意見書**

令和2年1月24日

ふくしま新ステージ有識者懇談会

ふくしま新ステージ有識者懇談会は、福島市のまちづくりに関する最も重要な計画である第6次となる新たな福島市総合計画の策定に関して調査審議するため、令和元年5月7日に設置されました。

これまで5回にわたる会議を開催し、現在の総合計画の進捗状況や福島市の人口動態などの現状などを確認しながら、第6次福島市総合計画における10年先を見据えた福島市の目指すべき将来のまちの姿である「将来構想」及び将来構想を実現するための5年間の基本的な考え方である「基本方針」について慎重に議論を重ねてまいりました。

ついては、当懇談会における委員の意見の概要を次のとおり取りまとめましたので提出します。

これらが第6次福島市総合計画策定の一助になることを期待します。

【ふくしま新ステージ有識者懇談会の開催経過】

回	開催日	主な議事
第1回	令和元年 5月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・有識者懇談会の役割及び議論のポイント ・新しい総合計画の構成と策定推進体制
第2回	令和元年 8月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・福島市の現状 現行の総合計画の進捗状況、人口動態、 社会指標分析 ほか ・総合計画 Yu-Me（ゆめ）会議の活動状況① ・「将来構想」及び「基本方針」に関する 協議①
第3回	令和元年 11月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画 Yu-Me（ゆめ）会議の活動状況② ・「将来構想」及び「基本方針」に関する 協議②
第4回	令和元年 12月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい総合計画の体系図 ・「将来構想」及び「基本方針」に関する 協議③
第5回	令和2年 1月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・「将来構想」及び「基本方針」に関する 意見書の決定

【総合計画全般に関する事項】

総合計画は、福島市のまちづくりに関する最も重要な計画であり、福島市が目指すべき将来のまちの姿を実現するため、長期的な展望のもと、まちづくりの基本的な方向性などを示すものであることから、特に以下の3点を踏まえてご検討いただきたい。

- (1) 総合計画は市民と行政が共有するものであり、子どもから高齢者まで幅広い世代に分かりやすく、親しみのある内容であるべきと考えます。
- (2) まちづくりの指針として「どのようなまちにしていくか」という意気込みやメッセージ、理念を明確に打ち出すべきと考えます。
- (3) 第1次から第5次までの総合計画の経過を踏まえつつも、前例に捉われず福島らしい独自性や特色をもった総合計画にすることが必要であると考えます。

【将来構想に関する事項】

将来構想は、10年先を見据えた福島市が目指すべき将来のまちの姿を描くものであることから、特に以下の5点を踏まえてご検討いただきたい。

- (1) 福島市が大切にしなければならない視点は何かを考え、福島らしさを大切にすることを盛り込むべきであると考えます。
- (2) 福島市のみならず日本全体で少子高齢化や人口減少が急速に進展しており、人々の暮らしやまちの活力の維持など、未来につながる持続可能性の理念については、最重点的に捉えるべきであると考えます。

(3) 福島市の復興は未だ道半ばであり、第6次福島市総合計画が始まる令和3年度以降においても、力強い復興に向けた取り組みを進める必要があると考えます。

また、復興を成し遂げる福島市の姿を広く発信し、世界から目標にされるようなまちづくりが必要であると考えます。

(4) 福島市は、福島県の県都であり、中核市でもあるため、県北、福島圏域はもとより、福島県全体の拠点としての様々な役割を担う必要があると考えます。

(5) 国際化への対応や、様々な価値観や互いの個性を認め合う風土の醸成などが地域社会に求められており、多様性の理念を踏まえる必要があると考えます。

【基本方針に関する事項】

基本方針は、将来構想を実現していくためのまちづくりの方向性として、第6次福島市総合計画の計画期間である5年間の基本的な考え方となるものであることから、特に以下の5点を踏まえご検討いただきたい。

(1) 市民一人ひとりが幸せを感じる環境にいることは、そこにある企業やまちも活性化することに繋がります。特に子どもや若者、さらには子育て世代が楽しさや魅力、わくわく感などを感じられる視点が必要であると考えます。

(2) 昨今の異常気象を踏まえ、家族や個人、地域、さらには行政が助け合いながら、防災・減災などの視点を踏まえた災害に強いまちづくりが必要であると考えます。

(3) 福島市の特徴である花や音楽、歴史・文化、温泉やくだものなどの資源（強み）、山や川などの自然・景観など、伝統的な福島らしさを大事にするとともに、発展や挑戦といった新しいものを生み出す視点も必要であると考えます。

- (4) 人と人がつながり、市民が「住んでよかった」「住み続けたい」と実感できる、周りから「住んでみたい」「行ってみたい」と思われるまちづくりが必要であると考えます。
- (5) まちは市民と行政がともに創り上げていくという考えのもと、市民がまちづくりに主体性（当事者意識）を持って参加し、自分事として取り組む必要があると考えます。

【将来構想の実現に向けて留意すべき事項】

将来構想の実現にあたっては、効果的で実行性のある仕組みが必要であることから、特に以下の2点を踏まえご検討いただきたい。

- (1) 各種施策の実施にあたっては、現在の総合計画の進捗状況や将来にわたる収入と支出の両面を踏まえた財政見通しを把握、分析し、限りある財源や人的資源などを考慮したうえで、優先順位や重要度を念頭に置いた戦略的な取り組みを展開するべきであると考えます。
- (2) 「総合計画 Yu-Me（ゆめ）会議」は、市民が主体的にまちづくりに関わる良い機会であり、当事者意識を高める効果的な場であります。今後も行政、市民、大学、経済界などが一体となったまちづくりを進める仕組みを設けるべきであると考えます。

ふくしま新ステージ有識者懇談会

会 長	伊 藤	宏
副会長	三 宅	祐 子
委 員	岡 野	誠
委 員	菅 野	孝 志
委 員	菅 野	廣 男
委 員	木 下	真理子
委 員	齋 藤	美 佐
委 員	高 橋	満 彦
委 員	高 橋	理里子
委 員	高 谷	理恵子
委 員	西 内	みなみ
委 員	安 田	信 二
委 員	渡 邊	博 美